

【神奈川県 開成町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

子どもたちが学習用端末をより日常的に利用できるような環境整備や促進の試みを通じ、『第4次開成町教育振興基本計画』に示す子どもたちの生きる力の育成を目指す。

2. GIGA第1期の総括

本町では令和2年度から学習者用端末として1人1台のChromebookを導入し、学校内で自由に使用できるよう高速大容量のネットワークを整備した。また、学習者用端末の活用を推進するため「ミライシード（オクリンク/ドリルパーク）」を導入することで、個別最適・協働的な学びの実現ができるよう、環境を整えてきた。

人的な利活用支援としては、ICTカリキュラムコーディネーター・ICT支援員を配備することにより、ICTを組み込んだ授業計画策定の補助や授業実践の蓄積、使用方法の常態的なサポートを行った。また、学校参加のGoogle Workspaceの活用研修や情報モラル研修を実施し、安全にクラウドサービスを利用するための素地づくりにも取り組んだ。

3. 1人1台端末の利活用方策

(1) 1人1台端末の積極的活用及び個別最適・協働的な学びの充実

「教育DXに係る当面のKPI」に示されている内容について、以下を目指す。

項目	KPI	目標値（目標年度）
1人1台端末の積極的活用	毎年度ICT研修を受講する教員の率	100%（R6）
	情報通信技術支援員（ICT支援員）の配置	現状維持 ※4校/人（R3）
	1人1台端末を週3回以上活用する学校の率	100%（R6）
	デジタル教科書を実践的に活用している学校の率	100%（R10）
個別最適・協働的な学びの充実	児童生徒が自分で調べる場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校の率	100%（R6）

	児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校の率	80% (R8)
	教職員と児童生徒がやりとりする場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校の率	80% (R8)
	児童生徒同士がやりとりする場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校の率	80% (R8)
	児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校の率	80% (R8)

【現状の課題】

各学校からのヒアリングや、活用状況に関する報告から、本項目に関連して「児童生徒のリテラシー・スキル不足」に課題があると把握している。

端末自体の活用に合わせて、各場面についての活用が進めていけるよう、児童生徒自身のリテラシー・スキルの向上を目指したい。

【解決方策】

- ・ 情報活用能力を高めることのできるカリキュラムや教材学習の検討
- ・ 子どもによるデジタルでのアウトプットを組み込んだ授業づくり
- ・ 宿題など自学自習場面でのICT活用推進（ドリルソフトや調べ学習、成果物をデジタルで作成するなど）

上記を課題とした研究・検証を、教育委員会及び各学校情報担当者を中心に検討していく

(2) 学びの保障

「教育DXに係る当面のKPI」に示されている内容について、以下を目指す。

項目	KPI	目標値（目標年度）
学びの保障	希望する不登校児童生徒へ端末を活用した授業への参加・視聴の機会を提供している学校の率	100% (R8)
	希望する児童生徒への端末を活用した教育相談を実施している学校の率	100% (R8)
	外国人児童生徒に対する学習活動等の支援に端末を活用している学校の率	100% (R8)
	障害のある児童生徒や病気療養児等、特別な支援を要する児童生徒の実態等に応じて端末を活用した支援を実施している学校の率	100% (R8)

【現状の把握】

各学校からのヒアリングや、活用状況に関する報告によると、特別な支援を要する児童生徒に対して現在導入されているGoogle Workspace やドリル教材を用いた支援を行っていることが分かった。さらに、外国人児童生徒への支援には、翻訳ツールを活用した支援が実施されている。

一方で、教員の研修や実践事例の不足や、児童生徒のリテラシー・スキルの不足が課題として挙げられた。町内での好事例が報告されていることから、こうした活用方法を共有できる体制を整えるとともに、児童生徒のリテラシー・スキル不足の向上を目指したい。

【解決方策】

学びの保障としての1人1台端末活用を促進していけるよう、クラウドサービスを用いた町内及び他自治体の好事例を共有できる仕組みを検討し、好事例を展開していく。